

2009 Vol. 7  
THE BSSC JOURNAL  
通巻7号 2009年1月26日発行



びわこ成蹊スポーツ大学新聞 Biwako Seikei Sport College

# THE BSSC JOURNAL

びわこ成蹊スポーツ大学の「今」を伝える ©びわこ成蹊スポーツ大学新聞編集部 発行=びわこ成蹊スポーツ大学メディア研究会 〒520-0503 大津市北比良1204番地 http://www.bsscjournal.net/

## 飯田学長の新年メッセージ

2009年の抱負を語る飯田学長

### びわスポの特色を打ち出し、誰もが満足できるキャンパスに



世界不況のまっただなかの授業で可能としていく。新しい年が明けました。現在、成蹊短大で実施して「数」の充実をはかっている。まずは、教員の国際社会も日本の社会にも不安と混迷が高まり、先行前後で希望しても受けられない学生がいて、専門性を高めることも必要だ。このままではいけない。そのほかにも、入試の形式も検討しており、センター入試の導入を考えている。また、本学は比良の緑と琵琶湖の水という恵まれた自然環境がある。この自然を活かした3大実習の充実も欠かせない。学生はこうした実習を通して何を学び、何を身につけていくのか、環境を充実させることも大切だ。これは、部活のスポーツだけに限らず、学習にしている環境もそうだと思う。教育はさらに充実できる。大学に限らず、企業研究などに本学の野外プログラムを活用してもらおう。ここで、競技能力を高めるために努力をする意識を学生に求めたい。また、そうした意欲の燃える学生のいい面を引き出すのが、指導の要諦だ。学生と教員でパフォーマンスを上げていくこと、びわスポの特色も兼ねて、質の向上にもつながる。学業や競技の成績だけを求めるのではなく、人から信頼される、徳のある人になるために毎日の生活の中で考えることを怠らないでほしい。学生の若さは、創造性とイコールだとも言える。新しい感覚が生み出すものを大切に、自ら創造すること、価値観を生み出すことが自己の発達につながるだろう。教員の呼びかけが一方通行にならないように学生も考えなければいけない。

これまでやってきたことの継続と同時に、私は常に学生の満足や教員の充実について考えている。今年も懸案の多目的グラウンドを早急に実現させて学生にスポーツの機会を増やすことに全力をあげたい。新グラウンドなど施設の充実、学生みんなの満足度につながるはずだ。ただ、代表として、多目的グラウンドの完成を早期実現しなくてはならない。工事に伴って道路拡張など新たな問題が起き、国と大津市、警察関係者と話し合いを重ねている。早期に解決し、来年度中に完成させることが今やらなければならない一番のことだと思っている。

本学の特徴を生かした教育について、関西大学、立命館大学をはじめ、関西でも多くの大学でスポーツ系学部の開設が相次いでいる。競争はこれから激しくなるが、特に出すチャンスもある。これも今年のおおきな事業の一つだと考えている。

本学の特徴を生かした教育について、関西大学、立命館大学をはじめ、関西でも多くの大学でスポーツ系学部の開設が相次いでいる。競争はこれから激しくなるが、特に出すチャンスもある。これも今年のおおきな事業の一つだと考えている。

本学の特徴を生かした教育について、関西大学、立命館大学をはじめ、関西でも多くの大学でスポーツ系学部の開設が相次いでいる。競争はこれから激しくなるが、特に出すチャンスもある。これも今年のおおきな事業の一つだと考えている。

サッカー記録  
**福岡大 2 (1-0) 0** びわこ成蹊スポーツ大  
▷得点 前半13分 永井【福】 後半22分 藤田【福】 =PK 10SH2 9GK6 3CK3 17FK13



# 初戦突破ならず

## 完敗

サッカーの全日本大学選手権に初出場したびわこ成蹊スポーツ大は12月21日、栃木・足利市で行われた1回戦で福岡大と対戦したが、0-2で敗れベスト8進出を逃した。関西学生リーグでゴールを量産したびわスポは福岡大の堅い守りが崩せず、逆にカウンター攻撃から先取点を奪われる苦しい展開になった。後半も反則からPKで追加点を許すなど持てる力を出し切れないうまに終わった。

### 敗戦を糧に強く、たくましいイレブンに

12月20日23時20分大学試合の流通経済大学・仙台大学戦は、8-0で大勝した流経大の多彩な攻撃に、ただただ「すごい」を連呼するだけだった。ほとんどサッカーを知らない私は、得点が決まるたびに、これが全国制覇を目指すチームの強さなのだと感じた。

強さにはどこか美しさがある。どんなに泥臭いプレーでも、それが結果に繋がれば「粘り強いプレー」と評価される。そして本場に日本一、世界を目指す選手の姿は、感動を与えてくれる。しんどい事をやりたがる人はいない。逃げたくなる。それを感じながら学校を目指す。学生課が窓口になった応援の「弾丸ツアー」には、保護者やサッカー部の仲間、一般学生ら約100人が集まり、3台のバスは栃木県・足利へと向かった。

びわスポの新たな歴史をスタートさせる地は、とても静かな町だ。「本場に全国大会の会場なのか」と思いながらも試合会場へと向かった。第1中盤でボールを競り合う主将松津

陣取り、びわスポのユニフォームでスタンドを青く染めた。びわスポの応援団は熱かった。90分間ほとんど休むことなく声を出し続け、福岡大を圧倒していた。栃木にいなから、「ここは関西か」と思ったほどだ。

「力の限り」戦う選手と声の限り応援し続ける応援団。個人種目の経験しかない私は、その姿がとても羨ましかった。同時に、部員数の確保に悩んでいる部には考えられない光景を作り出せるサッカー部に「強いサッカー部」になってほしいと心から思った。競技場でのサッカー部は選手も、応援団もかっこいい。

0-2の完敗。びわスポイレブンは何を思ったのだろう。この日、関西からインカレ出場をした3校全てが初戦敗退した。一方、福岡大も2日後に流経大に敗れ、ベスト4には関東勢が3校残った。関西と関東のはっきりとした力の差だ。

初めてびわスポの試合を観に行ってきた。思わずから戦。サッカーの知識もない私が思ったことは、もっとサッカーと向き合ってほしい。

今後の目標は、国内外を問わず「卒業」の一年といわれていますが、本学の今年の目標は、

福岡大		びわこ成蹊スポーツ大	
4-5-1	4-4-2	西川	小池
河福重	田井富路	下中	山内
宮富末	重成	山本	池津
長藤伊前	谷田	山本	井野
	藤山	小浅	土平
	山井		
	永		

〔交代〕福=高橋(後8分、伊藤)、市川(後21分、前山)、松尾(後43分、永井) び=藤部(後0分、土井)、瀬古(後21分、小池)、新中(後43分、平野) 退場=中原(び)後半21分

# 全国が 厚国が の壁た



「もう少しやれると思っ  
たが、全国の舞台で勝つに  
は、やはりまだ力不足だっ  
た」。インカレで初采配を  
松田監督が0-2の敗戦を  
振り返る。関西学生リーグ  
で最多の46ゴールを奪った  
攻撃力が封じられ、シュー  
卜数が福岡大の10に対しび  
わスポはわずか2。指揮官  
が指摘した「力不足」を裏  
付ける貧攻だった。

全国各地リーグから集  
まった16強の中でびわスポ  
は新潟医療福祉大と並ぶ初  
出場。「緊張というより最  
後まで自分たちのリズムが  
つかめなかった」という選  
手たちの言葉は、9年連続  
33回目の福岡大との経験差  
を物語る。前半13分、中盤  
でボールを奪われ、左サイ  
ドを福岡大の快足FW永井  
に突破される。堅守のDF  
内野が振り切られたスピー  
ドには、実力の違いも浮き  
彫りになった。先手必勝と  
よくいわれるが、びわスポ



スタンドをブルーで染め上げたびわスポ応援団

## 初戦突破ならず



福岡大の厳しいマークに苦戦した攻撃陣

が描いた展開とは逆に先取  
点を奪われたことで、攻守  
の歯車が狂う。速いプレス  
を仕掛ける福岡大の守備  
は、FW平野にボールを集  
めるびわスポの攻撃パター  
ンをしっかりと研究した成果  
だろう。びわスポの課題は、  
こうした苦境を打開する策  
をFWもゲームメイクの  
MFも持ち合わせていない  
ことだ。俊足という武器を  
持ちながらFW平野の攻撃  
は、緩急をつけるといった  
自在性や創造性に欠ける。  
びわスポに先立った流通経  
大の試合(8-0で仙台大  
に圧勝)は、鮮やかなパス  
まわしと個人技に裏打ちさ  
れた多彩な攻撃が際立った  
が、同時に全国大会のレベ  
ルの高さ、関東勢の底力に  
だれもが目を見張った。び  
わスポは後半22分にDF中  
原の反則からPKで追加点  
を奪われ、反撃ムードも一

気がしぼんだ。松田監督は  
「大舞台の経験不足。ゲー  
ム駆け引きも普段とはま  
るで違った」と敗因をあげ  
た。強豪がひしめくインカ  
レで競り勝つには、個人技  
のレベルに磨きをかけ、ど  
こからでも攻撃をしかける  
ことができ、全員が守備に  
もひたむきになるという  
「トータルサッカー」に徹  
することだ。

びわスポだけでなく関西  
勢はリーグ1位の阪南大が  
2-3で高知学芸大に敗  
れ、関大も国土館に競り負  
けた。関西勢のサッカーそ  
のものが全国の舞台では通  
用しないという「東高西低」  
の現実、関西勢のサッカー  
のそのものを見直さない限  
り、学生サッカーの勢力分  
布を塗り変えることはまず  
まず困難になってくるだろ  
う。

## バレー女子がボランティアに貢献

12月13日、14日にわたっ  
て、滋賀県立体育館でVバ  
レリーグが行われた。  
東レアリーナで優勝した日  
本のチーム。木村沙織や  
大山加奈などの全日本代表  
選手も排出している。今回  
Vバレリーグのボラン  
ティアに女子バレーボール  
部として参加した。

選手が最高の環境でプレ  
ーができるためには組織や  
運営がしっかりしていない  
と試合は成り立たないとい  
うことを改めて感じた。い  
つもはプレーヤーとしてバ  
レーに携わっているが、今  
回はスタッフとしてバレー  
と携わり、コートとは違っ  
た角度から見ることができ  
た。発見が多かった。今私  
がバレーをできているのは、  
親や先生、仲間の支え  
があるからだ。このような  
恵まれた環境でバレーがで  
きることに感謝した。  
2日間ボランティアとし  
て、滋賀のバレー  
界の発展に貢



インカレ予選で健闘するびわスポ

して行ったが、初めは何を  
したらいいのか分からず、  
ただ言われたことをやって  
いた。でも、やっているう  
ちに人のために今、何がで  
きるだろう。と考えられる  
ようになり、人のために何  
かをするという楽しさを知  
った。

また、観客にも楽しんで  
もらえるようなイベントも  
あり、スムーズに試合運営  
を行うための配  
慮がなされてい  
たことも印象的  
だった。華やか  
な舞台の裏に  
は、必ずたくさ  
んの人の支えや  
努力がある。同  
じ滋賀県民とし  
て、ボランティア  
という形で参  
加できたことを  
大変嬉しく思  
う。また、自分  
も地域の子ども  
たちにバレーボ  
ールの指導をし  
て、滋賀のバレー  
界の発展に貢

打ち込んでくるという特  
徴を持つチームで、やりづ  
らさを感じながらもチーム  
力に対応することができた  
戦の末2-1で勝利。そして  
決勝トーナメントに進出  
し、佐賀女子短期大学(九  
州学連2部1位)と対戦。  
今まで課題としてチーム全  
体で取り組んできたことが  
プレーにありありとみられ  
たことや大会で引退とな  
る4回生の逸見の気迫の  
こもったプレーで第1セッ  
トを25-19で先取した。そ  
の勢いも第2セットから空  
回りし、サーブレシーブが  
乱れて3セットを連取され  
て逆転負けした。後一步の  
ところで勝利の女神には見  
放されてしまったが、心を  
繋いでボールも繋ぐ、プレ  
ーヤーもベンチも観客もみ  
んながバレーを楽しむ、み  
んなが笑顔になる、とい  
う

私たちの合言葉「繋ぎ笑け  
いらくしょう」バレーを  
するためにディスプリンを確立  
したり、ウェイトトレーニ  
ングを増やしたり合宿も重  
ねた。ミーティングでは互  
いに意見をぶつけ合い、と  
きにはチームがバラバラに  
なったこともある。しかし、  
それを乗り越えることで確  
実にチームは強くなった。  
来シーズンも勝ちチームで  
はなく「負けないチーム」  
作りを目指し、目標は1部  
昇格。そして全日本インカ  
レでも名を馳せられるよう  
に更なる飛躍をしたい。

(競技スポーツ学科  
女子バレーボール部2年  
北岸夢実)

## インカレの女子バレー 善戦及ばず

この大会は新チームにな  
ってからのシーズンの集大  
成となる試合とあって、チ  
ームの目指す「拾ってつな  
ぐバレー」に徹して戦った。  
予選リーグでは、春高バレー  
常連校を身とする2枚  
の大型のエースがいる新潟  
大学(北信越学連1部4位)  
と対戦。高いトスを思い切

献したい。今回のボランテ  
ィアを通して学んだことを  
忘れずに、今後の自分に生  
かしていきたい。また、こ  
のようなボランティアでは  
貴重な経験ができるので、  
機会があれば積極的に参加  
して色々な角度から学び視  
野を広げていこうと思う。  
(女子バレーボール部1年  
柴田恵里奈)

年末から年始にかけて  
の日本のスポーツ界は、  
カレッジスポーツ花盛り  
である。サッカー、ラグビ  
ー、アメリカンフットボ  
ール、駅伝。若い力の爆発  
を目の当たりにすると、  
新鮮なエネルギーをもら  
った爽快な気分になる。

箱根大学駅伝は難所の  
山あり、山下りで練り広  
げられた早大と東洋大の  
知恵比べ、根比べの走り  
に一喜一憂した。伝統の  
駅伝で思い出すのは、早  
大競争部の監督を務めた  
故中村清さんの言葉だ。  
マラソンの瀬古利彦らを  
育てた指導者のモットー  
は「マラソンは芸術だ。心  
で走れ。マラソンや駅伝  
に限らず、中村さんのモ  
ットーは、いろいろな競  
技にも当てはまる。アメ  
リカンフットボールのラ  
イスボウルでは、立命が

社会人のパナソニック  
電工に競り勝ち日本一  
に輝いた。けが人続出  
の苦境で社会人の猛攻  
を耐え抜き、終了寸前  
の逆転タッチダウンを  
狙ったパナソニックの  
パスを立命が阻止した。  
「みんなの心がひとつ  
になった」と選手はそ  
の喜びをかみしめ合っ  
ていたが、学生の劣勢  
が伝えられた展開を打  
破したのは、団結とい  
う心の強さだった。

本学のびわスポ・イ  
レブも初の全日本大  
学選手権の舞台にやっ  
と立った。保護者や一  
般学生、サッカー部員  
と一緒に応援バスタア  
ーで栃木・足利に出か  
けた。結果は福岡大に  
0-2で涙をのんだ  
が、中村清さんの言葉  
を借りるなら「芸術的  
なサッカーに欠け、心の  
ゆとりがない」戦いだっ  
た。サッカーという芸術  
性とは、創造性にあふれ  
たプレーだ。いろいろな  
局面で選手一人ひとりが  
持つ固有のセンスがしば  
しば問われる。ミスター  
ジャイアンツといわれた  
長嶋のような動物的な力  
を發揮するいわゆる天  
才肌やサッカーのブラジ  
ル代表、ロナウジーニョ  
のように「イメージを何  
度も繰り返し誰にもま  
ねできない技ができてあ  
がる。上達するには練習  
しかない」という努力家  
もいる。「天才は有限  
努力は無限」という言葉  
があるが、インカレの敗  
戦を糧にびわスポ・イレ  
ブンの奮起を楽しみにし  
ながら新しいシーズンを  
迎えたい。  
(サッカー部 地修)

コラム

### 天才は有限 努力は無限



# びわスポから、プロ野球選手の誕生だ。

# 北村ドラフト大団



## 独立リーグに挑戦 関西独立リーグ 北村 祐

2009年からプロ野球独立リーグとして発足する関西独立リーグ。その中でもプロ野球初の女子選手を獲得して注目を集めた「神戸9クルーズ」が本学4回生の北村祐(右)投手(内野手)を下ラフト1位指名した。自他共に認める走・攻・守3拍子そろった万能プレーヤーだ。

京都外大西高3年時に夏の甲子園を経験。2回戦で、現在西武で活躍している当時横浜高の涌井と対戦したが負傷していたこともあって、何もできずに負けた。その後、「体育の教員免許取得のために」と、他大学

からのオフアートを断り本学に入学。野球部入部後、1年生からレギュラーとして試合に出場し、京滋リーグ1部昇格の原動力となった。

11月2日から3日間神戸スカイマークスタジアムで行われたトライアウトには高校生から社会人まで幅広い年齢層の選手が参加していた。「3日間調子がよかった。走攻守でアピールできた」と振り返るが、その北村にとってもまさかの1位指名だった。結果を電話で通知された際に、「みんなに1位だと言っている

のでは」と疑ったほどだ。京滋リーグの今季は、終盤リズムを崩し、シーズンを通しての結果を残せていなかっただけに、トライアウトをベストの状態での力を出し切ることが「何よりもうれしかった」。

父親が野球、母親もソフトボールをしていたこともあり、3歳から自然とボールと慣れ親しんだ。小学3年生の頃から真剣に取り組んできた野球と向き合い高校・大学も順調な野球人生を歩んできた。独立リーグへの挑戦も「野球を続けたい」の一心からだ。「プロとしての意識を持ち、やるからには上を目指す」と意気込む北村の顔は自信にあふれ、誇らしげだ。

びわスポからのプロ選手誕生は、一期生でサッカーのJウィッセル神戸に入団した近藤岳登以来2人目。野球でプロといえは、セ・パリーグだけだと思われがちだが、近年プロの独立リーグが設立されている。四国・九州のワイランドリーグ、北信越の「BCリーグ」に続き、関西にできたのが、「関西独立リーグ」。インターネット・メディア会社「スナゴ」が運営母体となり、来春、和歌山・大阪・神戸・播州に拠点を置く4球団でスタートする。将来的には京都・滋賀・奈良を含めた8球団でのリーグ運営を目指している。

神戸9クルーズの監督は元阪神タイガースの中田良弘氏が就任する。他にも、就任するコーチは元プロ野球選手ばかり。新生の「神戸9クルーズ」で北村は歴史的な第一歩を刻むが、夢はさらに大きく膨らむ。独立リーグで力をつけ伝統のプロ野球へのステップアップである。「セ・パ12球団にぜひ挑戦したい」

## 2008年 アンケート

北京五輪に沸いた2008夏。あれから4ヶ月。世界的に経済不安が騒がれ、米国は新大統領候補が決定し、日本も麻生内閣が発足した。「ぐ〜」「アラフォー」が流行語大賞に選ばれ、「ぼにょ」が紅白初出場を決めた。目まぐるしい動きを見せた今年1年、びわスポ生には、なにが印象的だったのか。本学生に「今年のスポーツ重大ニュース」のアンケートを行った。

上位を占めたのはやはり北京五輪関連。世界最速の記録を打ち立てたウサインボルトへの関心が高かった。また、シドニー五輪での8年前の日本人女子初の金メダルを獲得した、Qちゃんことマラソンの高橋尚子選手の引退も大きな関心を集めた。



Q1 2008年もっとも印象に残っているスポーツニュースは？

1位	77票	北京五輪	ウサインボルト	100m・200m・100m×4リレー	3冠
2位	72票	北京五輪	ソフトボール女子	金メダル	
3位	65票	北京五輪	北島康介	平泳ぎ100m・200m	2冠
4位	60票	プロ野球	清原和博	引退	
5位	40票	北京五輪	陸上男子	100m×4リレー	銅メダル
6位	23票	サッカー	ガンバ大阪ACL制覇		
7位	22票	北京五輪	マイケルフェルプス	競泳8冠	
8位	17票	プロ野球	西武 日本一 & アジア		
9位	16票	陸上	高橋尚子	引退	
10位	15票	バドミントン	オグシオ	ペア解消	
		北京五輪	フェンシング	太田雄貴	銀メダル

Q2 今年1年を漢字一文字で表すと？

1位	【変】	首相が変わった/日米両国の政治に変化がみられた スポーツ・政治さまざまな分野での変化/オバマ氏の「チェンジ」
2位	【金】	五輪での金メダル/ガソリン代等の物価上昇/金融危機
3位	【麻】	麻生内閣誕生/大麻問題
4位	【新】	新内閣誕生/新大統領誕生/スポーツ界での新人選手の活躍
5位	【動】	スポーツで感動することが多かった/政界の動きが激しかった
	【退】	さまざまなスポーツ選手の引退
	【苦】	苦しいことの多い一年だった
8位	【米】	アメリカ新大統領決定/汚染米問題
	【偽】	食品偽造/小室哲也詐欺問題
	【逃】	ひき逃げ事件の多発/首相の投げやり辞任

## アルティメット新人戦

全日本学生新人アルティメット選手権大会は11月8、9日静岡・富士で行われ、女子のびわスポ大が準優勝した。2連覇に挑んだびわスポ女子は、予選リーグで国学院大、東京外大に順当勝ちして決勝トーナメントに進出。1回戦早大、2回戦の日本大をくだし、準決勝で宇都宮大を圧倒して、世界ジュニアで活躍した松山を中心に決勝の大体大戦に挑んだが、序盤にリードを奪われたのが響いて



5-10で2連覇を阻まれた。新人戦は登録2年目の1・2回生でメンバーを編成。日本大、中京大、大体大と並んでビッグ4に上げられるびわスポだったが、ライバルの大体大の速攻から守備を崩されて、精細を欠いた。男子は奮わず、予選リーグから敗者による順位決定リーグに回り、15・16位決定戦で立命大をくだして、15位だった。

## キッズ

11月16日、びわこ成蹊スポーツ大学のメインアリーナ、マルチアリーナで、サッカーの「ニコニコフェスティバル」が行われた。周辺の幼稚園や小学校から、およそ80人の子どもたちやその家族がびわスポに集合した。「地域交流の場とした」と、樋口、阪田(ともに4年)を中心に、本学のサッカー部に所属する、およそ30名の学生が運営に携わった。今年初めて行ったフェスティバルだったが、幼稚園や小学校への呼びかけもあって、80名の子どもや、その家族が集まった。はじめは恥ずかしそうにしていた子どもたちも時間が経つにつれ次第に打ち解け、同じチームの子と一緒にボールを追いかけたり、学生たちはそれぞれ、「キウリコーチ」や「アフロコーチ」など、子たちたちの覚えやすいコーチネームをつけ、一緒にゲームに参加した。フェスティバルの計画から、呼びかけ、運営、すべてを自分達でやり遂げたことに、多少の不安や苦労があったが、樋口は「事前準備などは大変だったが、子ども達はもちろん、自分達も成長できる場だった」と見えた。

春に続く2回目のイベント。「めっちゃくちゃ楽しかった」と語る樋口の顔には、子どもとサッカーを楽しむキウリコーチが重なって見えた。



